豊田工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	地理A

科目基礎情報

科目番号	01124	科目区分	一般 / 必履修，選択必修（社）
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	電気・電子システム工学科	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	高等学校　地理A（東京書籍）／新詳高等地図（帝国書院），新編地理資料（東京法令）		
担当教員	髙橋 清吾		

到達目標

(ア)地図の表現法を理解できる。
(イ)現代世界の国家の在り方について理解できる。
(ウ)世界各地の生活の在り方とその多様性を理解する。
(エ)世界各地の宗教や言語の在り方とその多様性を理解する。
(オ)世界各地の民族紛争の発生について、その原因を理解し、説明できる。
(カ)世界のエネルギー・鉱産資源の分布と持続可能な利用が必要であることを理解する。
(キ)世界における工業の発達が、新技術の開発と密接であることを理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
スケールと空間的パターン	様々なスケールから、空間パターンを捉え、その理由を説明することができる。	様々なスケールから、空間的パターンを把握することができる。	スケールによって空間の見え方が異なることを捉えられない。
民族・文化・生活の多様性	民族間の差異を踏まえて、その関係構築や共生の在り方を理解することができる。	様々な文化、価値の存在を把握することができる。	様々な文化、価値の存在を把握することができない。
現代におけるエネルギー・工業	技術の向上に伴う工業の発展とエネルギーの効率的な利用を説明することができる。	工業の発展と効率的なエネルギーの利用について把握することができる。	工業の発展と効率的なエネルギーの利用について把握することができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ⑤ 技術者倫理

教育方法等

概要	世界の情勢をインターネット等を通じて瞬時に知ることができる今日、我々は各地域間の特色を理解し、友好的・平和的関係を築いていく必要がある。私たちは今、国際人としてグローバルに、ローカルに考え、行動していく力が求められているのである。このため地理Aでは地球上の自然・人文現象について、グローバルな視点とローカルな視点の双方から空間的広がりや地域的差異の生じる仕組みを捉え、持続可能な社会の在り方を考えるための基礎力を養うことを目標とする。そこで本講義では、 ①現代における国家間の関係、②世界各地の文化的要素、③工業技術の発展とエネルギーの利用について取り扱う。
授業の進め方・方法	主に講義形式とする。
注意点	日々の復習を欠かさないこと。専門用語・統計・分布を暗記するだけでなく、諸現象の発生について地図帳で図示しつつ体系的な説明ができようになること。疑問や質問がある場合は担当教員に積極的にすること。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	地球の特徴と地図表現法	地図表現法とその特徴を理解することができる。
		2週	時差の求め方	世界各地の経度から時差を求めることができる。
		3週	現代世界と国家	国家を成立させる領域の役割と多様性について理解する。
		4週	現代世界と国家	国家をこえた世界的な組織の在り方、役割について理解する。
		5週	世界の人々の生活	世界の人々の暮らしが自然環境と密接であることを説明することができる。
		6週	世界の民族・言語	世界各地における民族と言語の多様性について理解することができる。
		7週	世界の宗教	世界各地の宗教の歴史と多様性の基礎を理解することができる。
		8週	民族紛争	世界各地で生じる民族紛争の問題点について理解することができる。
	2ndQ	9週	世界のエネルギー資源	世界各地におけるエネルギー資源の偏在と利用をめぐる国際関係について理解する。
		10週	新しいエネルギー	再生可能エネルギーの開発について理解する。
		11週	世界の鉱産資源	世界各地における鉱産資源の分布と輸出入について理解する。
		12週	世界の工業	工業の発達と立地について理解する。
		13週	世界の工業	世界の工業地域について理解する。
		14週	日本の工業	日本における工業発達の歴史的経緯と工業立地について理解する。
		15週	まとめ	これまでの内容を整理し、理解を深める。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	前9,前10,前11,前12,前13,前14
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
基礎的能力	30	50	20	100